

映画監督 **パラジャーノフの世界**

生誕 90周年、いまま世界中の映画ファンをとりこにしている



セルゲイ・パラジャーノフ監督（1924年1月9日～1990年7月20日）ソ連グルジア・トビリシ生まれ。アルメニア人。1946年モスクワの全ソ国立映画大学（VGIK）監督科に入学。アレクサンドル・ドヴジェンコやイーゴリ・サフチェンコ、ミハイル・ロンムなどの名匠の元で映画製作を学ぶ。1964年に監督した『火の馬』が世界的に高い評価を受ける。リアリズムと逸脱した自由な表現を嫌ったウクライナ映画行政当局と衝突し、1971年の次作『ざくろの色』はアルメニアで制作。1974年には同性愛、美術品の不法販売といった罪状で5年間の懲役判決を受ける。この不当な投獄に対して、フェリーニ、ロッセリーニ、ビスコンティといったヨーロッパの映画人が抗議運動を立ち上げ直談判。刑期を1年残した1977年ようやく釈放される。1980年代後半、ペレストロイカの進行により自由な環境で制作された『アシク・ケリブ』は、海外の映画祭で大絶賛を受けるものの同作品が遺作となる。

上映作品

『ざくろの色』

豊かな詩であり、
舞踏であり、
そして全編動く絵画である。



18世紀のアルメニアの詩人サヤト・ノヴァの生涯にオマージュを捧げた八章の美しい映像詩編。伝記ではなく、その時代の人々の情熱や感情を台詞のほとんどない映像言語で描いている。静物画のような題名がしめす通り、絵画的な美しさを放ち、また神秘的で謎めいた儀式性と様式美の面でタルコフスキーの「鏡」と並び称される作品である。監督・脚本 セルゲイ・パラジャーノフ 撮影 スウレン・シャフバジャン 美術 ステパン・アンドラニキャン 音楽 チグラン・マンスウリヤン 1971年

作品上映後、日本ユーラシア協会宮城県連合会事務局 移川仁さんの解説があります。

8月31日（日）13:30～

仙台国際センター 会議室 A

仙台市青葉区青葉山 TEL022-265-2211

参加費 500円（資料代含む）



主催 日本ユーラシア協会宮城県連合会 共催 右岸の羊座 問い合わせ 070-5326-1974 大越まで
ロシア映画を研究する会「キノエクラン КИНОЭКРАН」では、解説をまじえながら、ロシア映画の面白さに触れる映画会を定期的開催しています。会員を募集しています！問い合わせ下さい。